

平成 24 年 12 月発行

にじ 虹いろ

No. 5



リレー題字：小澤善六さん 絵：守屋雅裕さん

特集

関東地区種別代表者会議

山梨フォーラム in 甲府

星の里 夏祭り 他

事務局は黒子役

法人事務局長兼星の里管理者

中嶋 浩

平成5年の4月に入所施設「星の里」が開所して以来、20年の歳月が流れました。この間、様々な出来事があり、多様な取り組みも行ってきました。結果として委託事業も含めて20の事務所を数えるまでになり、職員数も常勤・非常勤併せて190名を超えるまでになりました。当然のことながら、そのことにかかる事務作業も膨大となりました。法人としての体制を整え、それぞれの事業が機能的に役割を果たすことができるよう法人内で調整をし、将来的な事業計画立案のための原資となる資料の作成が求められてきています。この状況を踏まえ、遅ればせながらではあります、平成23年度より事務局体制を強化し、係る作業を効率的かつ的確に行い、各事業の下支えとなれるような取り組みを行っています。ここ10年の福祉の制度は激動ともいふべき変遷の中で施行されました。法人の中でも利用者の生活や活動に支

障が出ないよう支援体制を始め、職員の労働環境も整えるべく整備してきましたが、まだまだ後追い感が強く、事後処理に追われる日々が続いております。今後、25年度施行の障害者総合支援法に始まり、27年度からは社会福祉施設会計の新基準がスタートする中、法人の事業計画において打ち出されている施設整備計画がいくつかあります。

一つめは生活介護事業所「菜の花」の改修工事。かねてから懸案となっていた浴室洗い場の改修と緊急時の避難路となるスロープの設置で、本年度の基盤整備事業の内示を受け、入札を経て着工と相成りました。

二つめは、26年度開設予定である新グループホームの創設事業。補助金申請や、福祉医療機構からの借入れの準備も進めており、それに伴う入所施設「星の里」の定員50名から40名への減員を実現していきたいと思っております。

新会計基準については、平成27年度からの導入を目指しております。法人全体の財務諸表の整理もさることながら、事業ごとの諸表を精査して数字から読み取れるものを事業計画に反映

させることができるよう、事務局が丸となって取り組むことで、事前の予算・決算書作りに結びついていくと思われまます。お恥ずかしい状況ですが、現在はずべてを外部に委託している有様ですので、実際は大きなことは言えないとお叱りを受けるかもしれません。しかし、これまで申し上げてきた内容を達成すべく事務局体制を整備すると共に、一人立ちできるように、内外研修も進めております。

この地域で生まれ、この地域に育てていただいた八ヶ岳名水会。これからも育てていただきながら、今後はしっかりと着実にまた、確実に地域に返していくものを法人として考え、形として表わすことができるよう取り組まなければならぬと思っております。

事務局は黒子の役に徹しながら、一致団結してこの取り組みを下支えしていく所存ですので、どうか温かく厳しく、そして長〜い目で見守っていただきたいと思っております。



平成24年度関東地区知的障害関係施設

種別代表者会議山梨大会 参加報告

さる11月15日(木)～16日(金)

に、八ヶ岳ロイヤルホテルにて、関東地区障害者福祉協会及び山梨県知的障害者支援協会主催の関東地区代表者会議山梨大会が、関東各県代表約250人の参加の下開催されました。大会テーマは「今、私たちの支援を考える」障害者権利条約の視点から」でした。私も主催県のスタッフの一人として参加しました。簡単ですが、大会の報告を致します。

大会1日目は、8つの分科会(会長事務局長会議、児童発達支援部会、障害者施設支援部会、日中活動支援部会、生産活動・就労支援部会、地域支援部会、相談支援部会、支援スタッフ部会)に分かれて大会テーマに沿って部会毎のテーマを設定し、活発な発表や討議を行ないました。

私が参加した日中活動支援部会のテ

ーマは「私たちの目指す支援とは」であり、生活介護、就労継続A型、就労継続B型、生活訓練の各事業についての事例発表とシンポジウムを行ないました。生活介護については、私が、八ヶ岳名水会生活介護の取り組み」と題して、名水会の3つの生活介護の現状、成果、課題について発表させていただきました。

大会2日目には、「自立支援法から総合支援法へ」と題して、日本知的障害者福祉協会政策委員長 最上太一郎氏による講演が行われました。氏は、障害者施策の具体的な懸案事項について、氏自身による厚労省とのやり取りを話され、総合支援法施行後の障害者施策の近未来的な方向性について非常に示唆に富んだ内容を解説されました。その後、最上氏をコーディネーターとして、関東地区知的障害者福祉協会会長の菊地達美氏、日本知的障害者福祉協会日中活動支援部会長 森下浩明氏、日本知的障害者福祉協会地域支援部会副部会長 村尾朗氏によるシンポジウム

が参加者一同が真剣に傾聴する中、活発に行われました。

2日間の大会で、激動の時代ともいえる日本の障害者福祉が、現在どういった状況下にあるのか、山積する課題はどう打開すべきなのか、その中で、現場における支援のあり方は如何にあるべきなのか、こうしたことについて、参加者それぞれが問題意識と解決のための方向性を共有することができました。そして、この内容を、各県の代表者が持ち帰り、それぞれの現場において討議され、来年7月に開かれる関東ブロック本大会山梨大会に引き継がれていくこととなります。来年度創立20周年を迎える八ヶ岳名水会にとっても非常に意義深い代表者会議となりました。(菜の花 管理者 廣瀬政光)



山梨フォーラム in 甲府2012

9月15日(土) 甲府ホテル談露館で、「山梨フォーラム in 甲府 2012」が開催され、山梨県をはじめ、滋賀県などから約250名の参加者がありました。

フォーラムでは、白梅学園大学の堀江まゆみ教授が「障害者虐待防止法の施行と市町村障害者虐待防止センターに向けて」と題して講演し、シンポジウム「障害者虐待防止は市町村の取り組みから！」シンポジストとして、堀江教授、北杜市の米田福祉課長、社会

福祉法人三富福祉会の服部所長、社会福祉法人清長会の出口氏が参加しました。

障害者に対する虐待を発見した人に、自治体への通報を義務付ける障害者虐待防止法の10月施行を前に、自治体の担当者や福祉施設関係者、専門家が意見を交わし、参加者からは通報があった場合の、自治体や福祉施設が緊密な連携を図ることの必要性について意見が出されました。

後半は、厚労省社会・援護局障害福祉部障害福祉課 辺見聡課長の講演「障害者総合支援法に向けて」がまさに現在の考え方を説明されました。そ

して、シンポジウム「障害者総合支援法をどうデザインするか？」シン

ポジストとして障害者政策委員会の氏田委員、辺見課長、全国地域生活支援ネットワーク大原代表理事、山

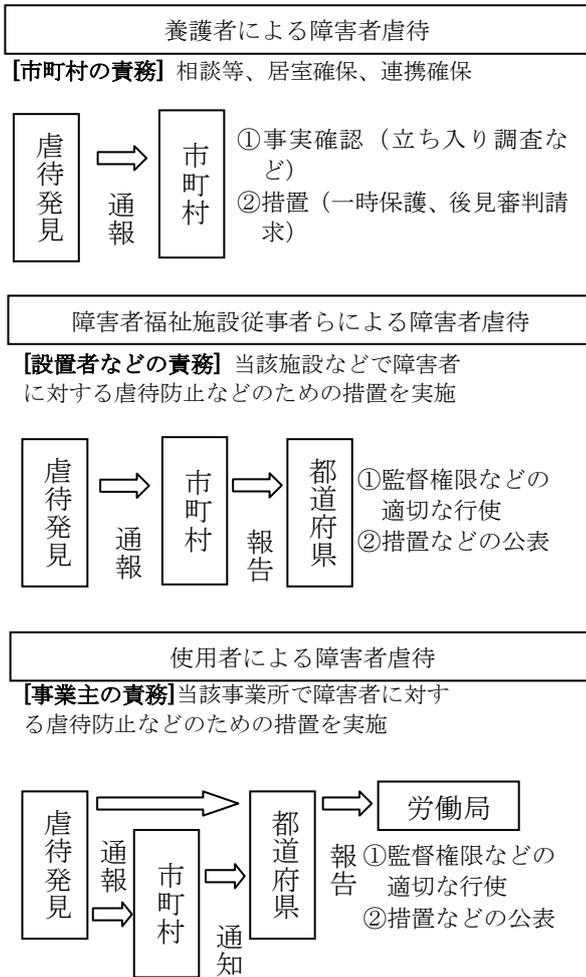
梨県知的障害者支援協会の山西会長の有意義な意見交換がありました。

休憩をはさんで「未来に向けて」我が国の障害福祉のカタチ」社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団の北岡理事長、全日本手をつなぐ育成会 田中理事長の鼎談がなされました。

八ヶ岳名水会は、実行委員会事務局としてフォーラムの主催に加わり、保護者会、後援会、職員40名余りが参加しました。フォーラム後の交流会にも多くの職員が参加し、講師の先生、他施設の職員とも交流を深め、今後の業務に活かせる有意義なフォーラムになりました。

(事務局次長 小泉浩一)

障害者虐待防止の流れ



『山梨フォーラム』

『甲府に参加して』

「セルフリセット」という言葉には
つとしました。

社会人になって一年ちよつと。もち
ろん社会福祉に携わるようになっても
一年ちよつと。今まで全くと言ってい
いほど障害者福祉は私にとって未知の
世界です。その世界に飛び込み、無我
夢中で走り続けてきました。

「利用者さんの心の拠りどころにな
りたい」。それは入職当時思ったこと
ですが、今も変わりません。ただ、現実
は厳しいもので、私が思い描いていた
現場とは日々を重ねるごとに異なっ
ていきます。「私には向いていないの
ではないか。福祉にもしかしら必要な
人間かもしれない。」そんな風に考
える毎日が続きました。

そんな中で、山梨フォーラムに参加
し、虐待防止法への知識を深めると、
虐待以外のところへの視野が開けて
きたように思います。「二十四時間支援」
という言葉があるように、私たちは一
日一日を連続して「見ていく」仕事で

す。ただ、支援員は実際には交代勤務
です。様々な支援員がつながることで
一日が作り上げられていくのです。一
日がつながることで一週間、一ヶ月、
一年……。つながっていくためには、
つなげていくためには、私たち一人一
人の「心の持ち様」も大切なのだど
が付きましました。

「セルフリセット」——虐待してい
るかも、今の支援ちよつとまづいかも、
と思ったときの自己自制との説明があ
りました。それだけではなく、日々
の支援から自分自身の「心」を持ち続
けることで、利用者さんのための「私」
自身でいられる……。いや、そうで
いたいと私は思うのです。

(入職二年目星の里 村居 奈津美)



星の里夏まつり

参加者の声

去る8月5日、星の里において、毎年恒例となつております夏まつりを開催致しました。

多くの方々のご尽力のお陰をもちまして、幸いにも無事、盛大に行うことができました。

本欄では、夏まつりに参加された方からお寄せいただいたご意見・ご感想を紹介させていただきます。

「星の里夏祭りを終えて」

夏祭りにお招き頂きありがとうございます。星の里の夏祭りはとても楽しく、いつも心待ちにしております。今年も参加させてもらえて嬉しく思いました。出店の品もおいしく、私はおからコロッケが大好きです。又、バザーも楽しんでいっぱいお買い物し、お祭り気分をすっかり味わって帰りました。司会の人達、音楽担当の人達、スタッフの人達の一生懸命な姿

が伝わってきました。そしてお祭りを見てくれる人達のやさしい目に、私達まで元気を頂き、楽しんでフラを踊る事が出来ました。私達のフラダンスで少しでも笑顔の人達が見られればとても幸せです。

星の里の皆様達にこれからも、笑顔の日々がたくさん来ますように！

フラアロハひまわり

代表 阿部すえ子



フラアロハひまわり様は、トツプバッターとして素敵なフラダンスを披露して下さいました。真夏に相應しい陽気で楽しい踊りでした。来年も是非ご協力をお願い致します。

「たくさん元気と笑顔」

毎年おまねきいただきありがとうございます。私達「杜の舞・髪」グループは美容師仲間、体力作りのつもりでよさこいをはじめ、現在では各施設、デイサービス、イベントと声を掛けていただくようになりました。その中に星の里様にも縁ありましてお世話になっております。今迄、夏まつりに参加して思ったことは、スタッフの皆さん、利用者のご家族の皆さん、何日も前から準備にたいへんご苦労をなさっていることを感じています。でも毎年たくさんの方が参加しているのには驚きます。裏方さんのご苦労のたまものです。おまつりはたくさん元気、たくさん感動で笑顔になります。その場所によさこいソーランで参加し逆に私達ももっと体から湧いてくる活力を与えられたらと思いつけております。皆様のお変わりない日々、またお会いする機会を楽しみにしています。お元気でありますように。

「杜の舞・髪」 代表 功刀晃明



「杜の舞・髪」様には、迫力あるよさこいソーランを披露していただきました。リズムカルな踊りに、利用者の皆様もとても楽しそうにしておられました。またお会い出来て、一緒に踊れることを楽しみにしております。

「20周年の夏祭り」

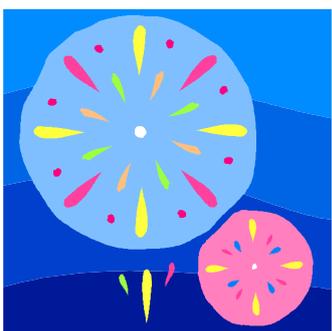
楽しみ！」

今年も星の里の夏祭りに出かけた。目当てはコンサートとカレーと花火。好天に恵まれてどのミュージシャンも伸びやかに個性を発揮し熱演、充分に楽しませてもらった。入居者のケアをしながら全体にも目を配りキビキビ動く職員さんの仕事ぶりも見せてもらった。

コンサートではやはり最後のバンドが心に残る。入居者の女性が飛び入りで歌い出したら、リーダーはさりげなく彼女に合わせて演奏を続けていた。こちらまで嬉しくなる一光景だった。ラストのよさこいソーランは圧巻だった。それと踊りのよさこいチームとの競演が実現していたら一段と盛り上がったに違いない。歌と踊りが終わったとたん名物の花火がドドーンとくれば、もういうことなしのフィナーレとなっていただろう。

来年は星の里20周年とか。課題は地域の住民の参加だろう。祭りに来れば楽しいし、何かしら発見がある。それは星の里への理解につながると思うのだが……。

(一孤老)



年毎に星の里夏まつりにお越し下さる皆さんも増え、来年は数えて20回目。20周年を迎えます。それぞれの団体に個別の出演をさせていただくところから、歌や踊り等、演技の内容によっては、団体と団体が競演できる形にもっていったら、新たなつながりも出来、効果も大きいと思います。更に、祭りのメリハリ。演目のタイミン等、宿題をいっぱいいただきました。

星の里の夏まつりなくして地域は語れないと言われるよう、日常の活動と同時に晴れの場も企画していきます。

今回の夏まつりの様子について、八ヶ岳名水会のブログにて写真と併せて紹介しております。

(http://image.blog.ocn.ne.jp/yatsume/2012/08/post_1a14.html)

来年の皆様のご参加を心よりお待ちしております。



女取の泉

四年目に思う・・・

私の一日は、送迎車に乗り込み、利用者さんの家、あるいはケアホームに迎えに行くことから始まります。「おはようございます」と利用者さん親御さんにあいさつをして、朝一番で利用者さんの様子を聞きます。「元気で変わりないですよ」と返事が来ると、今日も元氣そうだなと嬉しく思います。少し親御さんとおしゃべりをして次の利用者さんのところへ車を走らせます。送迎車の中は、利用者さんとの楽しいおしゃべりの空間となっています。送迎予定の利用者さんをすべて乗せ終えて菜の花へ無事に着くとほっとします。

そんな私も、菜の花で働くようになって四年目に入りました。ある人から「福祉の仕事をしてみない？」と声をかけていただいたのが八ヶ岳名水会に就職するきっかけです。菜の花へ仕事が決まりましたが、障害者福祉については何もわからないことばかりで、日がたつにつれ「私に勤まるかな」と不安も出てきました。でも、利用者さんの笑顔に助けられ、また、よき上司や先輩に恵まれ、多くのことを教えてい

ただき不安も少しずつなくなってきました。上司から「菜の花は学校ではないので利用者さんが卒業して行くことはありません。一生のお付き合いをしていきますよ。」とも教えられました。本当にその通りだなと思いました。利用者さん一人ひとり自立して生活できるように少しでもお手伝いが出来れば良いな、と私は思いました。そんな中、昨年は大震災の支援のお手伝いに石巻市の方へも行かせて頂きました。

被災地の皆さんが大変な状況で頑張っている姿に心を打たれました。そして今年、悲しい別れもありました。命の大切さを考え、気持ちを引き締める思いでいます。それでも、うれしいこともあります。利用者さんが私の名前を覚えてくれたり、ニコニコして側に来てくれたりすると、元氣が出ます。四年目に入って、菜の花からおおぞらへと仕事の中心も変わりました。「ふーっ」と力を抜いて考えるとき、改めて福祉の仕事の大切さを感じます。

これからも菜の花、おおぞらの利用者さんが楽しく元気に安心して過ごしていただくためのお手伝いが出来れば良いなと思う今日この頃です。

(菜の花 茅野洋子)



※このコラムの名が

POINTofVIEWPOINTから

「女取(めとり)の泉」へ引き継がれました。

女取の泉は北杜市北部、標高1160mの女取川の源流に位置し名水百選にも指定されている、森の中にある美しい泉です。

このコラムは八ヶ岳名水会で働く、各事業所の職員が、交代で執筆してゆくコーナーです。

菜の花研修棟が完成しました！

以前より「春の陽、菜の花、陽だまりエリア」の研修・会議スペースの不足が法人内や利用者からも問題としてあげられていました。今年度、プレハブではありますが、日野春の春の陽センターに隣接して、「菜の花研修棟」を建設いたしました。7月より使用を開始しています。法人内外の様々な研修や会議等に有効に使われています。財源不足の中、プレハブとしてスタートしましたが、近い将来、防災機能を備えた恒久的な建物を計画しています。



☆好評発売中です☆



豆の花では国産大豆を使い、木綿と絹との中間的なソフトでおいしい豆腐を作っています。あつあげやうすあげ、がんもどきも大人気の商品です。これからの季節、鍋やおでんなどにも大活躍です。ぜひ、一度ご賞味ください。みんなで愛情たっぷり丁寧に作り上げています。

手作り味噌も発売中です。以前に「虹いろ」でも紹介しましたが、地元産大豆を使ったとても美味しいお味噌です。文字通り「手前味噌」です。どうぞお買い求めください

なお、豆の花豆腐、ふ工房は月曜日から金曜日12時～18時（月曜日はとうふのみの販売）となっております。

しまちゃんの川柳コーナー



夕日浴び トンボ飛びかう 秋の空

秋味覚 今日も採れたて 秋の味

北風が 寒い寒いと 冬誘う・・・

訃報

八ヶ岳名水会理事長坂本敬新夫人で元法人職員の坂本喜久江(さかもときくえ)様が、十一月十二日ご逝去されました。享年七八歳でした。謹んでお悔やみ申し上げます。

ありがとうございました



○題字を書いてくださった方

法人後援会員 小澤 善六さん

○表紙絵を描いてくださった方

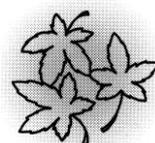
菜の花利用者 守屋 雅裕さん

・・・素敵な字と絵をありがとうございました。

苦情等の状況について

平成二四年四月から、十一月までに苦情処理として正式に出された案件はございませんでした。

訂正とお詫び



夏号の「Point of View Point」の中で、「現在の日本平均寿命は男性七十七歳、女性七十三歳」との記事がありました。これは平均寿命ではなく、厚生労働省が2012年に発表した健康寿命(日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間のこと)のことです。訂正しお詫び申し上げます。

編集後記

一年半ほど前に携帯をスマートフォンに変えた。昭和30年代の世代にとって、いわゆるスマホというのは、子供の頃の夢が正に現実になったものである。鉄腕アトム・鉄人28号・スーパージュエッター等々、子供の頃のヒーローは皆スーパーアイテムを駆使して、悪者や怪物、悪性エイリアンと戦っていた。今、スマホを手にして、大怪物と戦っているわけではないが、電話、スケジュール管理、インターネット検索、ネット通販、あらゆる記録に仕事も生活も大変役立つ。夢とは現実化できるものである。こと詳細に想い描けば必ず実現する。それは、スマホに限らずすべてのことについて言えることである。⊙

社会福祉法人 八ヶ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355 FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@mx5.nns.ne.jp

広報委員会スタッフ

廣瀬政光(菜の花) 坂本ますこ 茂木洋輔 相吉謙輔 村居奈津美

望月杏沙美 徳川吉彦(以上星の里) 坂本むつみ(事務局) 立川 瞳(春の陽)

山口和江 小池 翔(菜の花) 清水めぐみ 中村和稔(以上陽だまり)

鈴木直子(事務局) 河西悠介(春の陽) 穂坂雄太(菜の花)

◎ 「虹いろ」は今号より発行番号で表記します。

◎ 「八ヶ岳名水会後援会だより」は年一回の発行になりました。

